

「良い医療を、効率的に、
地域住民とともに」

私達は地域住民の健康増進のため、他の医療機関や保健福祉分野と力を併せ、地域中核病院として、当地域の医療を担うと共に、さらに高度な医療に対応できるよう努力します。

SCRUM No.57

すくらむ

発行：赤穂市民病院 〒678-0232 赤穂市中広1090番地 TEL0791-43-3222 (代) FAX0791-43-0351
編集：赤穂市民病院広報委員会

新年を迎えて

副院長 小野成樹

昨年は東日本大震災や台風被害などの災害がめだつた年でした。災害で被害にあわれた方々へ心よりお見舞い申し上げます。当院もいわて花巻空港へのDMATの出動、災害拠点病院としての石巻への救護班の派遣、兵庫県薬剤師会からの要請での南三陸町への薬剤師の派遣、兵庫県臨床検査技師会からの要請での陸前高田への検査技師の派遣、日本社会福祉士会からの要請での石巻へのMSWの派遣のほか線量測定のための放射線技師の派遣、気仙沼への総務係長の行政の応援などで若干の関与をしてきました。私も救護班として石巻へ行かせてもらいました。毎日宿舎の仙台と救護所のあった鹿妻小学校を往復しましたが、その道中に石巻市立病院があります。石巻市立病院は地震では被害は受けなかったものの、そのあとの津波で病院の中核部をやられた状態で大きな被害を受けていました。その立地条件が当院と全くといってよいくらい同じなのに驚愕しました。石巻市立病院は旧北上川の河口にあり、当院は千種川の河口にあります。景色は同じでした。当院も電気設備などの中核が一階にあり、津波は来なくても千種川の氾濫で一階は水浸しになる可能性があります。他人事と思えない状況で対応が迫られます。

当院も新病院移転から十四年たち、時代にそぐわない箇所、部門が目立ってきました。新病院建設時、十年先を見ることがなく現状のままの移転がコンセプトであったよう、移転当初よりすぐに変更に余儀なくされてきました。もともと増築余地を残した設計でもありましたので、それとすることで平成十九年二期構想が具体化しました。しかしながら、予算面等にて市の賛同を得ることが出来ずお蔵入りとなっていました。昨

年度末、やはり長期的な展望が必要ということで院内に中长期計画策定準備委員会を立ち上げ議論を開始しました。そして今年度は市との協議を進めていく上で赤穂市の医療、福祉、介護、保健を考えながら当院の将来を考えようということ、で合意をもち、今度の方向に進めています。今の時代一医療機関のみがどうのこうのと言っている状況にありません。医療もチーム医療の時代であるとともに、医療だけでなく、福祉、介護、保健との連携をとって市民の安全安心を図る必要があると思われれます。こうした状況においてさらに災害対応の問題が新たにクローズアップされ、あわせてハード面での整備が急がれます。

当院が抱える問題は多岐にわたっています。まずは医師、看護師不足の問題です。国は医療の均てん化を進めて、国民がどこにいても同じ医療を受けられるようにと整備を図っています。しかし、現実には均てん化ではなく重点化になっています。統廃合が進められ、ここ西播磨地域は中播磨地域に合併されそうになっています。何かにつけ効率よく都市部で物事が進められています。赤穂から姫路は近いとはいえません。時間的、経済的にもっと近くない限り問題が残ります。となると当院がもつと中核らしく振舞えるように整備していく必要があります。患者様からも医師や看護師等の医療人からも選ばれる病院にならないとこの地域は地盤沈下していき



